O.R.P -950mV
（pH13.0 以上）

アルカリ電子機能水

アデン水

商標登録申請中

商標登録
申請中

R・E農法
大地の復興

酸性・アルカリ性電子機能水を使用した新たな農法

■ R・E 農法とは
(Renaissance of Earth)

電気分解装置により生成された電子機能水「アデン水」を使用し、人間の価値と尊厳を守り、大地の微生物や菌達と共生・共存の生活空間を構築し、美しい地球の大地を守るために考案された「大地の復興農法」である。

Renaissance of Earth

新潟県関川村　棚田遠景

アルカリ電子機能水（アデン水）とは・・・・

（1）簡単に言えば、水に若干の電解質（炭酸カリウム）を入れ、電気分解することによって、世界初の片側吐水方式により、アルカリ性水が生成される。この原理を利用して限界近くまで高濃度にし生成した電解水がアルカリ電子機能水「アデン水」である。

（2）この技術は正式には「電気分解透析技術」というイオン交換を電気の力で加速させて生成する技術である。

電子機能水の性状

区分	数値	区分	数値
pH	13.0(±0.2)	伝導率	2700μs/m
O.R.P	-945 ～ -950mv	粘度	1.2npd/s
K^+ 濃度	7200mg/L	アルミウム減耗率	0.4wts

特徴

①アデン水には反発しあう電荷 (−) が存在する

②多量の電子が内在し、多量の水素化物イオンを作り保存している

③クーロンカによって極めて激しく躍動している

電子機能水

この電子機能水は広範囲の分野でその能力を発揮する

農業・畜産・水産・工業・医療・食品等多岐に適用

農業における利用と効果

1
・大地の無農薬化
・残留農薬の無害化

2
・作物の健全、発育、食感、生産量増加

3
・殺菌力の効果

アデン水は希釈して使用

農薬などへの費用の軽減

費用削減及び生産量増加による増収

農薬・肥料散布の労働力の削減

○ 希釈倍率とその殺菌力

希釈倍率とその殺菌力について。
対象は植物の最大敵、カビ菌、その代表的なものであるピシュウム、リゾクトニア、フザリウムとした。

No	希釈倍率	効果		
		ピシュウム	リゾクトニア	フザリウム
1	1000 倍	無	無	無
2	100 倍	有	有	有
3	70 倍	有	有	有
4	30 倍	有	有	有
5	10 倍	有	有	有

菌の生育を止める事が可能か否かをテストした。（5 分間浸漬）

○ 各種類ごとの散布量と浸漬時間 (*1：10a は 1000 ㎡ (300 坪)　*2：50 倍希釈の場合)

No	種類	10a 当りの散布量 (*1)	種子別浸漬時間 (*2)	No	種類	10a 当りの散布量 (*1)	種子別浸漬時間 (*2)
1	トマト	250L	5 分	10	イネ	100L	5 分
2	メロン	250L	20 分	11	麦	100L	5 分
3	ブンタン	250L	20 分	12	イチゴ	150L	5 分
4	ハクサイ	150L ～ 200L	10 分	13	花弁類	200L ～ 250L	5 分
5	ダイコン ニンジン	150L ～ 200L	5 分	14	ナス	200L	5 分
6	キュウリ	250L	5 分	15	ホウレン草	200L	5 分
7	ミカン	500L ～ 600L	10 分	16	ジャガイモ	150L ～ 200L	20 分
8	リンゴ	500L ～ 600L	10 分	17	玉ネギ ネギ	150L ～ 200L	5 分
9	ナシ	500L ～ 600L	10 分	18	スイカ	250L ～ 300L	10 分

○ 電解水散布時期の例・・・・基本的に収穫後に 50 倍希釈散布を月 2 回を行い、土地を撹拌する

例1）ニンニク栽培

10a あたり	月別使用量						年間使用量	圃場面積 年間使用料
	9 月	10 月	11 月	4 月	5 月	6 月		
希釈倍数（倍）	50	200	200	200	200	200	-	総面積：400a 原液年間使用量：3600L（180 箱）
1 回散布量 (L)	500	500	500	500	500	500	-	
1 回散布時の原液使用量 (L)	10	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	-	
散布回数（回）	4	4	4	4	4	4	24	
原液総使用数 (L)	40	10	10	10	10	10	90	

例2）ミニトマト栽培

10a あたり	月別使用量						年間使用量	圃場面積 年間使用料
	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月		
希釈倍数（倍）	50	200	200	200	200	200	-	総面積：20a 原液年間使用量：64L（4 箱）
1 回散布量 (L)	100	200	300	300	200	100	-	
1 回散布時の原液使用量 (L)	2	4	6	6	4	2	-	
散布回数（回）	4	4	4	4	4	4	24	
原液総使用数 (L)	8	16	24	24	16	8	96	

農業とは

≫現状と解決

「農業」を英語で表すと「Agriculture」。「Agri」とは大地、土壌を表し、「Culture」は心を耕す事＝文化を意味する。つまり「農業」とは「大地の文化」すなわち「心を耕すように大地を愛する」の意である。今この大地は本来持つその機能が失われ、大量の農薬使用などにより、崩壊の危機にさらされている。

次世代に豊かな大地を、綺麗な水を、美しい地球を繋ぎたい。そしてそれは「生き物に必要な食の大地を守る事」でもある。

この現状を打開し「美しい大地の復興」を目指す為、長年にわたり研究してきた「アルカリ電子機能水＝アデン水」が農薬使用の削減を可能にし、同時に植物の成長を促すことに成功しました。

≫土壌と水

植物の生活圏である土壌は岩石（鉱物）と腐植から成り立っている。

岩石は礫、粘土、シルト、砂で構成され、腐植は動植物や土壌生物の遺体を微生物が分解し生産された物質を含む複合構成物である。

水（土壌水）は土壌空間に存在し、その時点ですでに陽イオン、陰イオンを含み、微生物の栄養素となっている。この水が土壌空間を絶えず移動している。

この空間内において、土壌生物・微生物が共存共栄し生命維持の基礎となっている。

≫微生物と動植物

微生物

地球のお掃除屋さん。
腐植や動植物の遺体や排泄物を分解し有機物を無機物（ミネラルイオン）に変えて植物に供給

空気

植物が必要な空気の78.1%は窒素である。しかしこのままでは利用できないため、窒素を微生物が分解し窒素化合物にすることで植物が吸収可能となる。

植物

植物は細胞によって構成され、細胞の半分はタンパク質から成り、その 16% は窒素が占めている。植物が生きていく上で必要な酵素、ホルモンも窒素化合物である。

窒素の仕組み

1. 有機成分内の窒素化合物は微生物によってアンモニアに分解
2. アンモニアは特殊な能力を持つ微生物によって亜硝酸、そして硝酸塩に分解される
3. 硝酸塩は硝酸イオン（NO_3^-）という－イオンの形で植物に吸収される

このメカニズムのスピードが生産と消費に合致していれば問題ないが、現在は亜硝酸塩過多となっており、問題になっている。

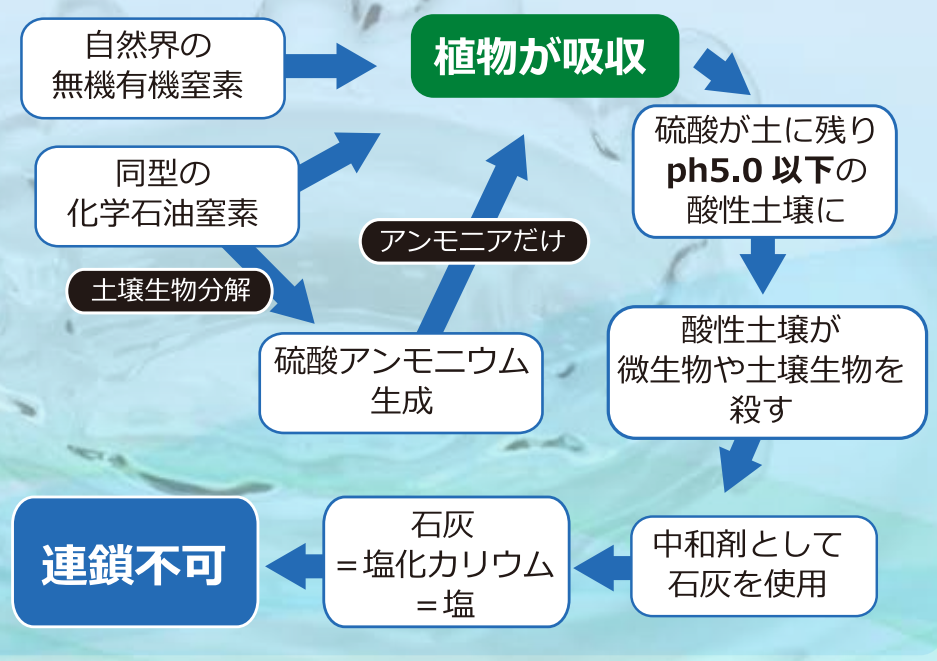
この大地の変革のスピードを調整し、
地球と地球上の生命を救う役割を担うのが

アデン水 である。

アデン水とはアルカリ電子機能水である。
大地や動植物の酸性過多（特に窒素過多）を中和し、さらに微生物の栄養素であるミネラル多元素物質を多量に含み大地を潤す「多機能水」である。
また、アデン水の利用によって「農薬不要な農業」が可能となり、大地を蘇らせる能力も持つ。

※ミネラル物質とは「酸素・水素・窒素・炭素」を含まない多元素含有物質の事

窒素過多→連鎖不可の流れ



大地の復興

アデンファミリーからのメッセージ

Renaissance of Earth with LOVE

大地より愛をこめて！

アデン水を使用している農家の皆さんからメッセージをいただきました。
アデン水の効果に驚く声や効能への期待の声をお聞きください。

青森県
徳差ファーム様

使用してみて結果が出るまで信じられない思いでした。２ヶ月の使用で、以後農薬なしで全ての規格が UP し、幹の丈夫さや葉の瑞々しさに驚いております。ニンニク育成の常識を覆し、「完全無農薬有機ニンニクを青森から」と発信を目指しがんばります！

新潟県胎内市
オザワファーム様

雑草ボーボー生えているサツマイモ畑ですが、これも有機肥料になるとの言葉を信じ、今から収穫を楽しみにしています。

山梨県甲州市
渡辺ブドウ園様

「ブドウの有機無農薬栽培」初め信じられなかったけど、出来ました。この農法は確実に農業革命になると思う。来年は更に拡張し、全農園に拡張するよう頑張る。

2017.08.13

新潟県関川村
平田農園様

「無農薬有機米？ JAS に？」大地の復興に夢かけるグループを信じ挑戦してみようと思った。
もしかしたら自分の夢も実現できるかも！？
同じ夢にかけたい！

販売・受注・導入相談

三和システム・エンジニアリング株式会社

新潟県胎内市表町 100-25　フラワービル 2F　TEL：0254-39-1234　FAX：0254-39-1239
会社 http://www.sanwasys.co.jp　　アデン水 http://www.aden-water.jp/

地域販売代理店

※記載内容は、予告なく変更するとこがあります。　　2019年1月 第4版